

2025年 小教区評議会 役員交流会

サイクルテーマ② 「共同体づくり」

～シノドス的共同体「靈における会話」の体験～



2025年10月11日(土)

「つながりの喜びを思い起こす」
シノドス流の共同体「靈における会話」の体験

†パウロ大塚喜直

今日の「靈における 会話」のテーマは

「洗礼によってつながっていることの喜びを、共同体としてどのように分かち合えるか」です。

1. 今日の目的

- ① 評議員として、耳を傾け、語り合い、共に歩む使命を深める。
- ② 信仰の旅路を共にする喜びでもって、小教区の未来を共に描く。
- ③ 「靈における会話」から生まれる希望を発見する。
- ④ 祈り(沈黙)と傾聴の中に宿る聖靈の働きを体験する。
- ⑤ 役員同士の新たな出会いと再発見

2. 「靈における会話」(Conversation in the Spirit)の意味と重要性

① 「靈における会話」の意味

「靈における会話」とは、神の望まれる方向性を共同で見出すためのものです。

聖靈の導きのもとで互いに耳を傾け、分かち合い、識別するという、教会共同体における対話です。これは単なる意見交換や議論ではなく、参加者が神の声と共に耳を傾けながら、共同体の歩みを識別していく営みです。

② 「靈における会話」の要素

- (ア) 祈り(沈黙):まず神の前に沈黙し、心を整える
- (イ) 分かち合い:一人ひとりが自分の体験や思いを語る
- (ウ) 傾聴:他者の語りに耳を傾け、評価せず受け止める
- (エ) 識別:聖靈がどのように働いているかを共に探る
- (オ) 応答と決断:共同体としての応答を祈りのうちに選ぶ

③ 「靈における会話」の重要性

「靈における会話」が大切なのは、教会が人間の考えではなく、神の御心を実現する場だからです。教会の意思決定は、祈りのうちに互いの声に耳を傾けながら、聖靈の導きを識別し、神が望まれる道を共に見出すことが求められます。教会が神の働きに応える靈的な共同体であり続けるために不可欠な営みだからです。

したがって、次のような実りが生まれます

- (ア) 互いの声に耳を傾けることで、信頼と尊重の土台が築かれます。
- (イ) 司祭・評議員・信徒が上下関係を越えて、同じ靈的土壤で語り合うことにより、教会の本質である「交わり」が現れます。
- (ウ) 表面的な意見の違いではなく、靈的な動機や願いの共有を通して、誤解や対立を乗り越え、異なる視点が調和し、共通理解への道が開かれます。
- (エ) 「靈における会話」を経た識別は、単なる多数決や効率ではなく、神の望みに根ざした選択へと導かれます。

3.「つながりの喜びを思い起こす」

- ① 洗礼は、私たちがキリストに結ばれ、神の家族の一員となる恵みの始まりです。
- ② けれども、日々の生活の中で、その「つながり」が実感できないこともあるかもしれません。
- ③ 孤独や距離感、共同体の沈黙や疲れ、そうした現実の中で、私たちはどのように「つながっている喜び」を再発見し、分かち合っていけるでしょうか。

まずは、皆さん自身の体験を思い起こしてみてください。

- ① 共同体の中で「つながっている」と感じた瞬間はいつでしたか？
- ② 逆に、つながりが薄れると感じたとき、どんな思いがありましたか？
- ③ そのような時、誰かの言葉や祈り、行動が希望となったことはありませんでしたか？

今日の分かち合いでは、そうした経験を通して、私たちがどのように「つながりの喜び」を育み、共同体として生き生きと生きることができるかを探っていきたいと思います。

どうぞ、安心して、自由に分かち合ってください。

以上

「ともに歩む」教会であり続けるために

[1]「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、とくに貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもある。真に人間的なことがらで、キリストの弟子たちの心に響かないものは何もない」(『現代世界憲章』1)のです。

第二バチカン公会議のこの有名な主張は、すべての時代のキリスト教共同体の感性と生き方を表現しており、その構成員を鼓舞し続け、世において兄弟姉妹とともに歩む助けとなっています。(2025年「世界宣教の日」教皇メッセージから)

[2]愛の共同体である教会と家庭を支え育てていくために、『ともに喜びをもって生きよう－第1回福音宣教推進全国会議にこたえて－』で述べた「ともに」の精神、そしてすでに述べたその趣旨をいかす「共感・共有」が大切です。「ことばによる分かれ合いにとどまらず、物や時間やお金などを含めて自分自身の痛みをも伴う生き方を分かれ合う、このような生き方が福音宣教の重要な柱として定着していくことが大切であり、さらに『福音宣教』と『分かれ合い』との関係をより明確にしていくことが求められています」。

「分かれ合い」には、貧しい人々、苦しんでいる人々とともに苦しみ、自分が受けたたまものをその人々とともに分かれ合うことも、本質的な要素として含まれます。「分かれ合い」にはまず、同じ人間としての深い共感と共有がなければなりません。その模範を示したのは、人となられた神であるイエス・キリストご自身です。

わたしたちはこのキリストが、生活の現場でそれぞれ真剣に生きようと努力している人、とくに困難な状況のなかでキリストに従おうと努力している人とともにおられ、声をかけてくださっていると信じます。

わたしたちが、キリストを中心にして集まり、心を開いて語り合うとき、キリストの声はより力強く響きます。そうすれば、自分自身の状況を正しくわきまえるだけではなく、兄弟姉妹の立場にも正しい理解を示すことができるよう変えられることでしょう。このようにして、わたしたちはともに重荷を担いながら、「現実を識別して(見分けて)生きる信仰者」として成長することができると思います。

「分かれ合い」は教会共同体全体の課題であり、わたしたち一人ひとりの課題です。「分かれ合い」が福音宣教とつながるものであってほしいと願っています。

(司教団文書『家庭と宣教－家庭を支え福音を生きる教会共同体の実現をめざして』(1994年)から)

[3]「聖霊は確かな導き手であり、わたしたちの第一の務めは、その聖霊の声を聞き取れるようになるということです。聖霊はあらゆる人を通して、あらゆる事象を通して、語っておられる」のです。(《シノドス最終文書》(2024年)から)

シノドスのための祈り

Adsumus Sancte Spiritus(聖靈よ、わたしたちはあなたの前に立っています)

聖靈よ、わたしたちはあなたの前に立ち、
あなたのみ名によって集います。
わたしたちのもとに来て、とどまり、
一人ひとりの心にお住まいください。
わたしたちに進むべき道を教え、
どのように歩めばよいか示してください。
弱く、罪深いわたしたちが、
一致を乱さないよう支えてください。
無知によって誤った道に引き込まれず、
偏見に惑わされないよう導いてください。
あなたのうちに一致を見いだすことができますように。
わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、
真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。
このすべてを、
いつどこにおいても働いておられるあなたに願います。
御父と御子の交わりの中で、世々とこしえに。
アーメン。



個人の祈り

コリントの信徒への手紙 1 12:13

『…一つの靈によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隸であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの靈をのませてもらつたのです。』

教皇フランシスコ「ラウダーテ・デウム」19

『(最後に、)COVID-19 のパンデミックによって、人間のいのちが、他の生き物のいのちや自然環境とどれほど密接な関係にあるかが明らかにされたことを言い添えておきます。特別なしかたによってではありましたが、世界の一部で起こることは惑星全体に影響を及ぼすということが明確になりました。ですから、飽きられるほど繰り返し申し上げている二つの確信を、今一度述べたいと思います。——「すべてはつながっています」、そして「だれも独りでは救われません」。』

「靈における会話」のテーマ

「私たちは洗礼によってつながっていますが、つながりが感じられないこともあります。
それは様々な理由で共同体から離れていたり、共同体に活気がなかつたりするときかもしれません。
つながっていることの『喜び』を共同体として分かち合うために何ができるでしょうか。
また、共同体の皆でどのような取り組みができるでしょうか」

[MEMO]

【参考資料】「靈における会話 Conversation in the Spirit 」 ～シノドス的方法の体験～

この交流会では、教会のシノダリティをよく表す識別の方法として「靈における会話」を体験します。

●シノドス的教会(ともに歩む教会)の特徴

1. ともにある教会：「集い」や「共同体」を大切にする教会
2. ともに担う教会：共同責任
3. ともに考え、祈り、識別する教会：共同識別

●「靈における会話」とは

シノドス的教会における「共同識別」のための手助けとなるものです。

これまで分かち合いで大切にしてきた事がら(傾聴、受容等)から更にシノドス的方法として、以下の要素が加わります。

- ・与えられたテーマについての個人の準備
- ・発言時間の平等な配分(例：1人3分以内)
- ・沈黙と祈り(聖靈に聞きながら他者の発言を思いめぐらせる)

主役は聖靈 キリストにおける兄弟姉妹に耳を傾けることから、眞の主役である聖靈に耳を傾ける。

目的は自分を空っぽにして「聞く」ことに集中すること

●「靈における会話」のやり方 ただ聞くことにのみ集中するためメモを取ることをお勧めします。

「沈黙、祈り、みことばに耳を傾け」

個人の準備 聖靈の導きを願いながらテーマや問い合わせに対して自分の答えを準備する。

第1ステップ「わたし(I)」

発言し、聞く 相手の語った内容についてコメントや賛否は述べません。

沈黙と祈り グループの一人ひとりの分かち合いを聞く中で心に浮かんだこと、特に最も響いたこと、最も抵抗を感じたこと、大きな課題と感じたこと、聖靈が働いていると感じたことを祈りの内に思い巡らせる。

第2ステップ「あなた(You)

他者と神にスペースを開く 第1ステップで聞いたことから、沈黙の祈りの内に思い巡らしたことを分かち合う。第1ステップで発言しきれなかったことを追加で話すときではありません。

沈黙と祈り 第2ステップで各自の発言を聞くことで浮かび上がったことを振り返り、靈がどのようにグループとしての私たちを導いてくれるかを祈り求め、ポストイットに書きとめる。

第3ステップ「わたしたち(We) 書きとめた内容を発表しながらポストイットを貼る。

ともに形づくって グループ内での一致点、一致しがたい部分、新しい発見を共同作業で特定する。

グループ内のすべての人が、自分の声が反映されており、異なる意見を尊重しながら誰もが納得できるものにする。

(参考：『シノドス 2021-2024 第1会期討議要綱』、『日本のシノドスのつどい 資料集』『シノドスハンドブック』)